

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/01/04

欧州債務問題への関心薄れ円の動きが主導

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	「円」の動向がカギに 予想レンジ: 111.00~118.0円	2-3
ユーロ/ドル	➡	方向感定まりづらい 予想レンジ: 1.2800~1.3400ドル	4-5
ポンド/円	➡	日本の金融緩和期待に従う 予想レンジ: 136.00 ~ 147.00 円	6-7
ポンド/ドル	➡	リスクオンムードとなるかが鍵 予想レンジ: 1.5800 ~ 1.6400 ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	106.96円	114.69円	105.97円	114.42円



①	3日、「スイス大手銀行がフラン建て決済口座にマイナス金利を適用する」と報じられるとユーロ高・スイスフラン安が進行。さらに「スペインは欧州連合(EU)に対して銀行支援を正式に要請。融資は12月12日前後に実施」などと報じられた事もユーロ買いを後押しし、ユーロ/円は107.58円まで上昇した。
②	6日、欧州中銀(ECB)は政策金利(0.75%)の据え置きを発表。ドラギ総裁の会見で「金利について幅広い協議を行ったが据え置きを決定した」「中銀預金金利のマイナス(金利)について協議」などと発言。さらにECBスタッフ予測で12年と13年の国内総生産(GDP)見通しを下方修正した。これらを受けてユーロ/円は106.60円まで下落した。
③	10日、前週末8日に(緊縮財政派の)イタリア・モンティ首相が辞意を表明した事を受けて同国国債利回りが上昇。これを嫌気してユーロ/円は105.97円の安値まで下落した。ただ、その後は、一部通信社が関係筋の話として「日銀は国内景気の回復の遅れを懸念しており、次回会合での追加緩和を検討する方向にある」と伝えると円が売られたため、ユーロ/円は106.63円まで反発した。
④	13日、スイス中銀(SNB)がユーロ/スイス相場の防衛ライン(1.20フラン)の維持を発表すると、一部に防衛ライン引き上げの思惑があったためユーロ売り・スイスフラン買いが活発化。この影響からユーロ/円は一時108.64円まで下落したが、ユーロ圏財務相会合がギリシャ向け支援の支払いを承認した事などから欧州株の反発とともにユーロも上昇した。
⑤	17日、16日に投開票された本邦衆院選で自民党が圧勝。自民・公明の両党で3分の2以上の議席を確保した事で、安倍・自民総裁が主張する「大胆な金融緩和」が実現する可能性が高まり、円売りが優勢となると、取引開始直後にユーロ/円は111.18円まで上昇した。しかしその後は「材料出尽くし」による円買戻しが強まり、海外市場では109.92円まで反落した。
⑥	20日、日銀は金融政策決定会合後に「長期国債買入れを5兆円、国庫短期証券買入れを5兆円増額」「次回会合で中長期的な物価安定の目処について点検」などと発表した。追加緩和を受けた円売りと「材料出尽くし」による円買戻しが交錯し、ユーロ/円は乱高下した。
⑦	31日、一部通信社が「米『財政の崖』回避に向けたバイデン副大統領と共和党のマコネル上院院内総務の交渉は進展している」と報じた他、共和党のコーカー上院議員が「『財政の崖』の回避で31日に合意に達するだろう」との見解を示すなど、協議の進展期待が高まる報道が相次ぐとユーロ/円は114円台を回復。その後、マコネル上院院内総務が「税制に関する全てで合意に達した」「合意はすぐそこまで来ている」と発言するとNYダウが160ドル超の上昇となり、リスクオンの流れが加速、ユーロ/円は114.59円まで上値を伸ばした。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

今月のポイント

12月のユーロ/円相場は105.97円～114.69円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約6.7%の大幅上昇(ユーロ高・円安)となった。16日の衆院選で圧勝した自民党政権が、日銀に対して金融緩和圧力をさらに強めるとの見方から円安が進行。実際に、日銀も20日の金融政策決定会合で追加緩和に動くとともに、次回(1月22日)会合では物価目標の引き上げなど一段の緩和拡充について協議することを明らかにした。こうした中、ユーロ/円は「円安」が主導する格好で、28日には2011年6月以来の高値となる114.69円まで上昇した。

12月28日に発表されたシカゴ通貨先物市場(IMM)におけるユーロの売り持ち残高が大幅に減少するなど、ユーロ圏債務問題に対する市場の関心が薄れる中、1月についてもユーロの動向よりも円の動向がユーロ/円相場のカギを握る事になるだろう。

1月は、欧州中銀(ECB)による利下げ観測(10日に金融政策発表)や、2月に行われるイタリアの総選挙への思惑(財政改革支持派の敗色が濃厚となるなど)がユーロ売り材料となる可能性があるが、米議会において「財政の崖」問題に一応の決着を見た事や、21-22日の日銀金融政策決定会合で緩和策拡充が決まる可能性が高い事から、円が売られ易い地合は続きそうだ。1月のユーロ/円は堅調推移が見込まれる。(神田)

(予想レンジ:111.00～118.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

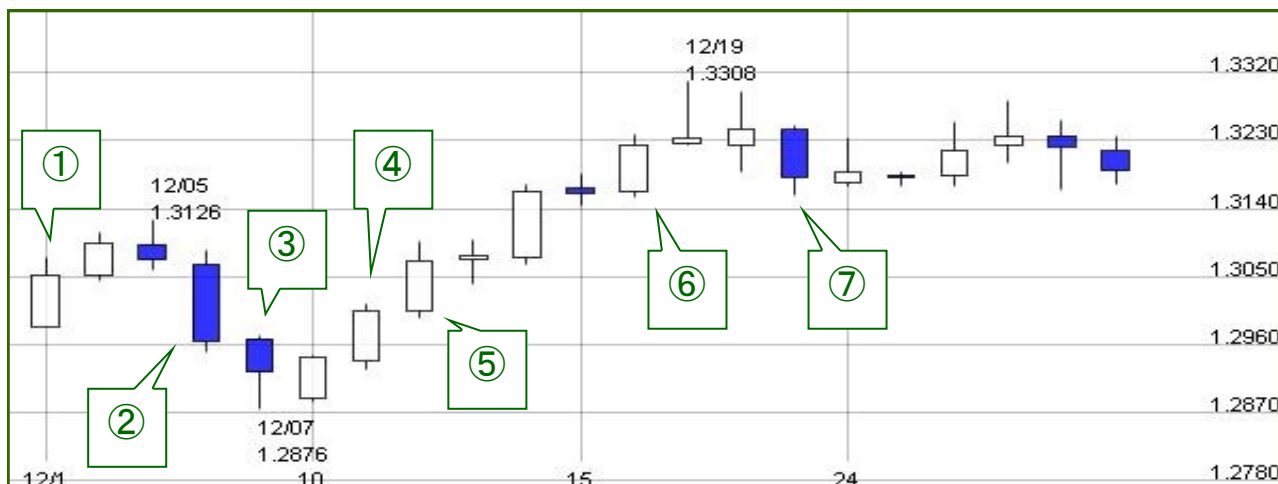
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/2(水)	12月独消費者物価指数・速報	1/11(金)	12月中国消費者物価指数
	12月米ISM製造業景況指数	1/14(月)	11月ユーロ圏鉱工業生産・季調済
1/3(木)	12月独雇用統計	1/15(火)	12月米小売売上高
	12月米ADP全国雇用者数	1/18(金)	第4四半期中国GDP
	FOMC議事録(12月11・12日分)		12月中国鉱工業生産
1/4(金)	12月ユーロ圏消費者物価指数・速報	1/20-24	1月独IFO景況指数
	12月米雇用統計	1/22(火)	日銀金融政策決定会合(21日～)
	12月米ISM非製造業景況指数		1月独ZEW景況感調査
1/8(火)	11月ユーロ圏小売売上高	1/23(水)	1月ユーロ圏消費者信頼感・速報
	11月ユーロ圏失業率	1/24(木)	12月日本通関ベース貿易収支
1/9(水)	11月独鉱工業生産	1/30(水)	1月米ADP全国雇用者数
1/10(木)	欧州中銀金融政策発表		第4四半期米GDP・速報値
1/10-13	12月中国貿易収支		FOMC政策金利発表

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロドル 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.2984ドル	1.3308ドル	1.2876ドル	1.3190ドル



①	3日、「スイス大手銀行がフラン建て決済口座にマイナス金利を適用」と報じられるとユーロ高・スイスフラン安が進行。さらに「スペインは欧州連合(EU)に対して銀行支援を正式に要請。融資は12月12日前後に実施」などと報じられた事もユーロ買いを後押し、ユーロ/ドルは1.3075ドルまで上昇した。
②	6日、欧州中銀(ECB)は政策金利(0.75%)の据え置きを発表。ドラギ総裁の会見で「金利について幅広い協議を行ったが据え置きを決定した」「中銀預金金利のマイナス(金利)について協議」などと発言。さらにECBスタッフ予測で12年と13年の国内総生産(GDP)見通しを下方修正した。これを受けてユーロ/ドルは1.2950ドルまで下落した。
③	7日、スロバキア中銀のマクチ総裁が「木曜日の(ECB)会合では政策金利について非常に真剣な協議が行われた」「状況が改善しなければ来年に金利を変更するとの予想は可能だ」などと発言するとユーロ売りが活発化。さらに米11月雇用統計(失業率7.7%、非農業部門雇用者数14.6万人増)が良好な結果となるとドル高が進みユーロ/ドルは1.2876ドルの安値を付けた。
④	11日、独12月ZEW景況感調査が6.9と予想(-11.5)を上回った事や、スペイン国債入札が好調だった事からユーロが上昇。さらに一部報道で「ギリシャは(次回融資を受け取る条件である)国債買戻しについて300億ユーロの目標を達成できる見込み」と伝えられると、ユーロ/ドルは1.30ドル台を回復した。
⑤	12日、米連邦公開市場委員会(FOMC)は、ツイストオペ終了に伴い毎月450億ドルの長期国債買入れを発表。同時に「失業率が6.5%以上にとどまるとともに、インフレ率が2.5%を超えない限り、異例の低金利を続ける事が適切」として「失業率目標」を導入した。これを受けてドル売りが強まるとユーロ/ドルは1.3097ドルまで上昇した。
⑥	18日、米「財政の崖」の回避に向けた協議において、民主党のオバマ大統領と共和党が増税対象をめぐりお互いに歩み寄る姿勢を見せた事が「進展」と受け止められNYダウ平均が100ドル超上昇。格付け会社S&Pがギリシャの格付けを「B-」に引き上げた(ECBやEUの取り組みを評価)事もあってユーロ/ドルは1.3238ドルまで上昇した。
⑦	21日、米共和党のペイナー下院議長が、この日予定されていた減税延長法案の採決見送りを発表(可決に十分な賛成票が集まらなかったとの理由)すると、欧米の株価下落とともにリスク回避の動きが強まり、ユーロ/ドルは1.3159ドルまで下落した。

EUR/USD

今月のポイント

12月のユーロ/ドル相場は1.2876ドル～1.3308ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.4%の上昇(ユーロ高・ドル安)となった。11月末のユーロ圏財務相会合で、ギリシャ向け支援融資が承認された事から欧州債務問題に対する目先の懸念が薄れる中、12日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で量的緩和第3弾(QE3)の拡充が決まった事でドル売りが優勢となったため、ユーロ/ドルは19日には8カ月半ぶりに1.33ドル台を回復。しかし、年末にかけては米「財政の崖」に対する懸念から伸び悩み、1.32ドルを挟んでもみ合う展開となった。

12月28日に発表されたシカゴ通貨先物市場(IMM)におけるユーロの売り持ち残高が大幅に減少している点から見ても、過去に構築された売りポジションの巻き戻しは一巡した可能性が高い。また、債務問題に対する懸念に一服感があるとはいえ、米・欧の景況感格差考えるとユーロの上昇が続く事は考えにくい。もっとも、米「財政の崖」問題が一応の決着を見せた事もあって、市場はリスクオンに傾き易い地合となっているため、ユーロが大幅に下値を切り下げる事も考えにくい。

1月のユーロ/ドル相場は、米12月雇用統計(4日)の結果や欧州中銀(ECB)の金融政策発表(10日)などに細かく反応するものの、方向感が定まりづらい展開となりそうだ。(神田)

(予想レンジ:1.2800～1.3400ドル)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

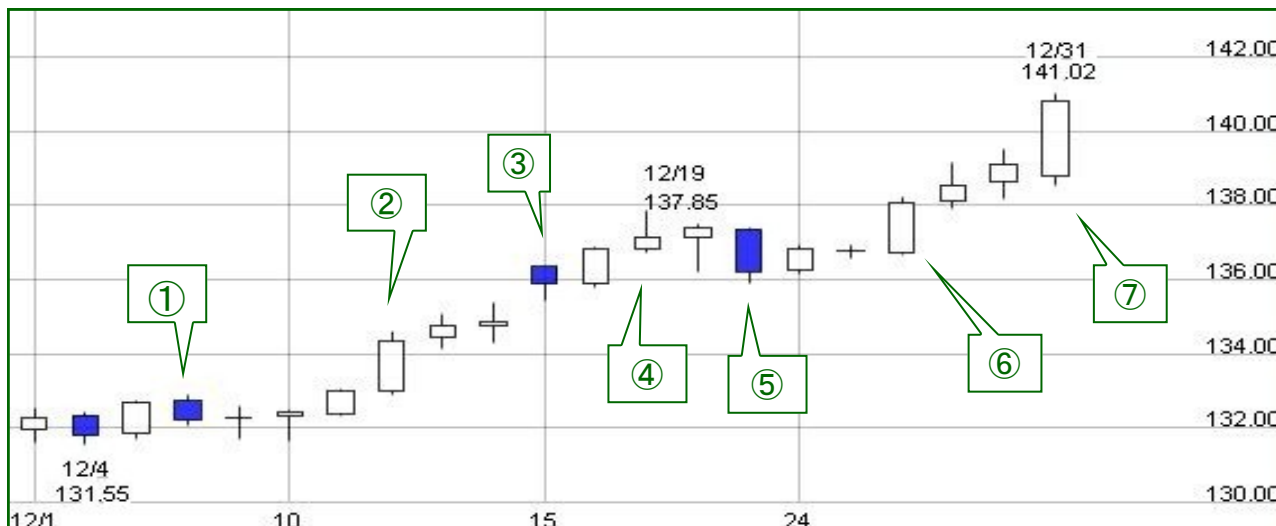
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/2(水)	12月独消費者物価指数・速報	1/10-13	12月中国貿易収支
	12月米ISM製造業景況指数	1/14(月)	11月ユーロ圏鉱工業生産・季調済
1/3(木)	12月独雇用統計	1/15(火)	12月米小売売上高
	12月米ADP全国雇用者数	1/16(水)	12月米鉱工業生産
	FOMC議事録(12月11・12日分)	1/17(木)	12月米住宅着工件数
1/4(金)	12月ユーロ圏消費者物価指数・速報	1/18(金)	12月中国鉱工業生産
	12月米雇用統計		第4四半期中国GDP
	12月米ISM非製造業景況指数	1/20-24	1月独IFO景況指数
1/8(火)	11月ユーロ圏小売売上高	1/22(火)	1月独ZEW景況感調査
	11月ユーロ圏失業率	1/23(水)	1月ユーロ圏消費者信頼感・速報
1/9(水)	11月独鉱工業生産	1/30(水)	1月米ADP全国雇用者数
1/10(木)	欧州中銀金融政策発表		第4四半期米GDP・速報値
1/11(金)	12月中国消費者物価指数		FOMC政策金利発表

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	131.95円	141.02円	131.55円	140.82円



- ① 6日、欧州中銀(ECB)のドラギ総裁が会見で「金利について幅広い協議を行ったが、据え置きを決定した」「中銀預金金利のマイナス金利について協議した」などと発言したことや、ECBスタッフ予想で2012年のユーロ圏国内総生産(GDP)見通しが引き下げられたこと等を背景にユーロ/円が値を下げると、ポンド/円も連れ安した。なお、英中銀(BOE)は金融政策の据え置きを発表。市場予想通りの結果に、反応は限られた。
- ② 12日、米連邦公開市場委員会(FOMC)後の声明で、ほぼ市場予想通り、ツイストオペ終了後に450億ドルの長期国債を購入し、400億ドルの住宅ローン担保証券(MBS)購入を継続すると発表した。FOMCを受けてNYダウ平均が上昇すると、ポンド/円は上昇した。
- ③ 17日、前日の衆議院選挙で自民党が圧勝したことを受けて日銀の金融緩和強化への期待が増したことを背景に円売り優勢で始まり、ポンド/円は窓を開けて開始。ただ、その後は伸び悩んだ。
- ④ 19日、BOE議事録では資産購入枠の拡大を主張したのはマイルズ委員のみ(前月と同じ)となった。一部に賛成者が増えているのではとの期待があったことでポンドは上昇。欧州株が堅調に推移したことも追い風となり、137.85円まで値を伸ばした。ただ、米ホワイトハウス報道官が米国の財政の崖問題について、「オバマ大統領は米共和党のベイナー下院議長が提案した『第2案』に対して拒否権を発動するだろう」との見解を示したことを受けてリスク回避ムードが広がると失速した。
- ⑤ 21日、米共和党はオバマ政権に対抗すべく減税延長法案を下院で可決する見通しだったが、共和党内の強硬派の反対で可決見込みが薄れ、採決が27日以降に持ち越されることが発表されると、リスク回避ムードが強まり、ポンド/円は下落。さらにNY市場でもこの流れが続いた。
- ⑥ 26日、日銀の金融政策決定会合議事要旨(11/19-20分)で「物価上昇率1%を達成するまで金融緩和をオープンエンドとすることを対外公表文に明記することを一人の委員が提案」などと書かれていたことを受けて円安が進行。さらに、NYダウ平均が上昇すると上げ幅を拡大した。
- ⑦ 31日、米財政の崖協議について与野党の合意に近いことが示唆されるとドル/円が上昇。また、NYダウ平均も上昇した。これらを受け、ポンド/円は141.02円と2010年5月6日以来の高値を付けた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / JPY

今月のポイント

12月のポンド/円相場は131.55円～141.02円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約6.6%の上昇(ポンド高・円安)となった。

この月のポンド/円はポンドの独自材料が相場を動かすことはほとんどなく、上昇の大部分は円安によるものだった。日本の安倍新政権が金融緩和をより強めるだろうという期待感で円売りが強まる中、ポンド/円は他のクロス円と同様、ほぼ一本調子で上昇することとなった。

1月のポンド/円も引き続き円主導での値動きとなりそうだ。21日から22日にかけて開催される日銀金融政策決定会合にて安倍首相による金融緩和強化の意向を日銀が受け入れるとの期待が強い上、米国の財政の崖問題が目先のところ回避されたこと、欧州の債務問題が一旦落ち着いている点を考慮すると、リスクオンになりやすく、かつ日本の緩和期待を受けた円安が進みやすいと考えられる。ポンド/円はさらに上値を伸ばす可能性がより高いだろう。ただ、米国の政局や欧州の債務問題についてリスク回避要因が新たに浮上してくればポンド/円の上げ幅を圧縮する動きになる可能性もあるため要注意だ。

なお、英国については、目下のところ資産購入枠の拡大を行うかどうか焦点だが、経済指標等、国内の状況に劇的な変化(特に、悪いもの)が見られない現状を考慮すると、拡大を見送る公算の方が大きそうだ。英金融政策委員会の議事録の内容は注目されるが、よほど目新しい内容にならない限りポンド相場の反応は一時的なものに留まるだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 136.00～147.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

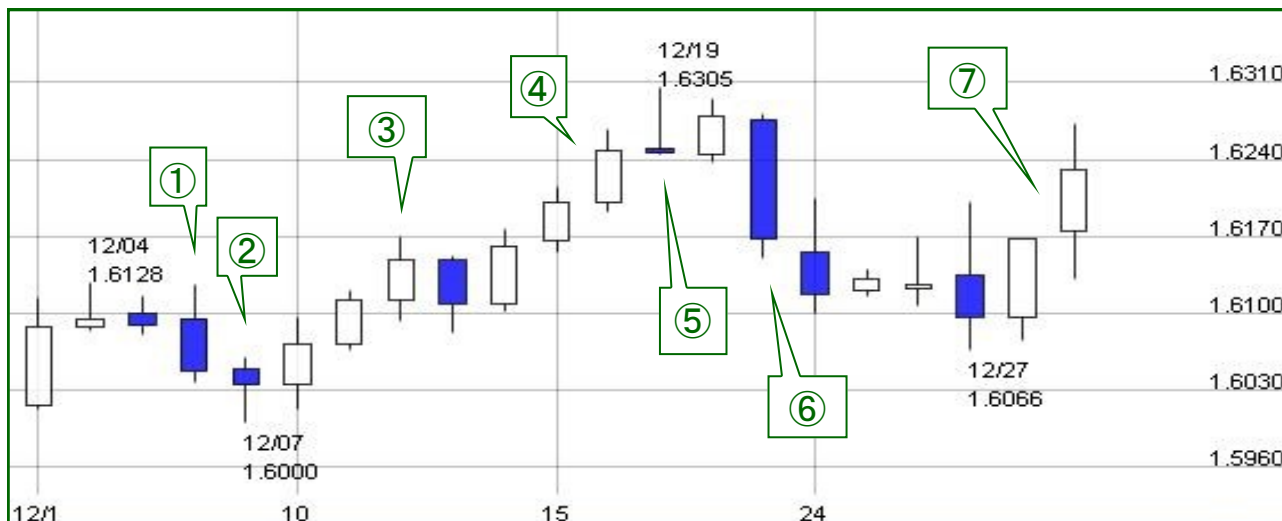
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/4(金)	12月米雇用統計	1/22(火)	日銀金融政策決定会合(21日～)
	12月米ISM非製造業景況指数	1/23(水)	日銀金融経済月報・基本的見解
1/9(水)	11月英商品貿易収支		12月英雇用統計
1/10(木)	BOE金融政策発表		BOE議事録
1/11(金)	11月日経常収支	1/24(木)	12月日通関ベース貿易収支
	11月日貿易収支	1/25(金)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (12月19日・20日分)
	11月英鉱工業生産		12月日全国消費者物価指数
1/15(火)	12月英消費者物価指数		第4四半期英GDP・速報値
	12月米小売売上高	1/30(水)	第4四半期米GDP・速報値
1/16(水)	11月日機械受注		1月米ADP全国雇用者数
1/18(金)	12月英小売売上高指数		米FOMC政策金利発表
	第4四半期中国GDP	1/31(木)	1月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.6016ドル	1.6305ドル	1.6000ドル	1.6230ドル



①	6日、欧州中銀(ECB)のドラギ総裁が会見で「金利について幅広い協議を行ったが、据え置きを決定した」「中銀預金金利のマイナス金利について協議した」などと発言したことや、ECBスタッフ予想で2012年のユーロ圏国内総生産(GDP)見通しが引き下げられたこと等を背景にユーロ/ドルが値を下げると、ポンド/ドルも連れ安した。なお、英中銀(BOE)は金融政策の据え置きを発表。市場予想通りの結果に、反応は限られた。
②	7日、独連銀が2013年のドイツの国内総生産見通しを下方修正したことでユーロ/ドルが下げた上、日本の三陸沖で強い地震が発生し、津波警報が発令されたことを受けてリスク回避ムードが強まると、ポンド/ドルは下落。米11月雇用統計が失業率が7.7%(予想:7.9%)、非農業部門雇用者数は14.6万人増(同:8.5万人増)と市場予想よりも大幅に良好な結果となると1.6000ドルの安値を付けた。ただ、主要国が株高になると、ポンド/ドルは切り返した。
③	12日、米連邦公開市場委員会(FOMC)後の声明で、ほぼ市場予想通り、ツイストオペ終了後に450億ドルの長期国債を購入し、400億ドルの住宅ローン担保証券(MBS)購入を継続すると発表。直後の市場はドル売りで反応を示したため、ポンド/ドルが急騰した。FOMCを受けてNYダウ平均が上昇すると、ポンド/ドルは上げ幅を拡大した。
④	18日、米国の「財政の崖」回避期待からNYダウ平均株価が上昇し、リスクを積極的に取る機運が高まると、1.6267ドルまで値を伸ばした。
⑤	19日、BOE議事録では資産購入枠の拡大を主張したのはマイルズ委員のみ(前月と同じ)となった。一部に賛成者が増えているのではとの期待があったことでポンド/ドルは1.63ドルまで上昇。ただ、その後は米ホワイトハウス報道官が米国の財政の崖問題について、「オバマ大統領は米共和党のペイナー下院議長が提案した『第2案』に対して拒否権を発動するだろう」との見解を示したことを受けてリスク回避ムードが広がると、ポンド/ドルは上げ幅を縮小した。
⑥	21日、米共和党はオバマ政権に対抗すべく減税延長法案を下院で可決する見通しだったが、共和党内の強硬派の反対で可決見込みが薄れ、採決が27日以降に持ち越されることが発表されると、リスク回避ムードが強まり、ポンド/ドルは下落した。
⑦	31日、米財政の崖協議について与野党の合意に近いことが示唆されるとNYダウ平均が上昇した。これを受け、ポンド/ドルは上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / USD

今月のポイント

12月のポンド/ドル相場は1.6000ドル～1.6305ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.3%の上昇(ポンド高・ドル安)となった。

12月のポンド/ドルは月半ばにかけて米国の財政の崖問題について、与野党間でクリスマスまでに合意がまとまるだろうとの楽観論からリスクオンムードが拡がり、上昇した。下旬に入り、共和党内部ですら意見をまとめることができず、下院での採決にも至らなかったことから一転してリスク回避の動きが優勢となり、ポンド/ドルは失速したが、月末にかけて再び早期合意期待が強まると反発するなど、月間としてみると乱高下となった。

1月は新規の材料探しの月になりそうだ。年末年始にかけての米与野党協議によって、米国の財政の崖問題については本質的には解決ではないが、一旦問題の喫緊性が薄れた形となった。経済指標も比較的安定しており、米国の政局や欧州債務問題に関する新規の悪材料が出てこない限り、リスク回避ムードは強まりにくい。主要国株価がこのまま堅調に推移すれば、上値をさらに試す展開になる可能性もあるだろう。

英国内部の材料については、既に使いきられている資産購入枠について、拡大をするかどうかが焦点にはなってくるものの、12月に急激に経済の状況が変化した様子が見受けられないことから、拡大賛成のメンバーが増えるとは考えにくい。BOEの金融政策委員会(MPC)の政策発表や議事録の発表前後に思惑的な動きが出て、一時的な動きの範囲に留まると考えられる。(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.5800～1.6400ドル)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/4(金)	12月米雇用統計		1月米フィラデルフィア連銀景況指数
	12月米ISM非製造業景況指数	1/22(火)	1月米リッチモンド連銀製造業指数
1/9(水)	11月英商品貿易収支	1/23(水)	12月英雇用統計
1/10(木)	BOE金融政策発表		BOE議事録
1/11(金)	11月英鉱工業生産	1/25(金)	第4四半期英GDP・速報値
	11月米貿易収支	1/28(月)	12月米耐久財受注
1/15(火)	12月英消費者物価指数	1/29(火)	1月米消費者信頼感指数
	12月米小売売上高	1/30(水)	第4四半期米GDP・速報値
	1月米ニューヨーク連銀製造業景気指数		1月米ADP全国雇用者数
1/16(水)	12月米消費者物価指数		米FOMC政策金利発表
1/17(木)	12月米住宅着工件数	1/31(木)	1月米シカゴ購買部協会景気指数
1/18(金)	第4四半期中国GDP		
	12月英小売売上高指数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。